

谷合第1遺跡

谷合第2遺跡

大塚遺跡

沿海南部地区広域農道建設事業に
伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(2)

1994. 3

宮崎県教育委員会

谷 合 第 1 遺 跡

谷 合 第 2 遺 跡

大 塚 遺 跡

沿海南部地区広域農道建設事業に
伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(2)

序

宮崎県教育委員会では、県南那珂農林振興局の依頼を受けて、昭和63年度から沿海南部地区の広域農道建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査を継続的に実施しています。今回は、北郷町内で本格的な発掘調査は初めてであった谷合第1遺跡・谷合第2遺跡・大塚遺跡の3遺跡について報告しています。

報告する3遺跡については、遺跡の立地条件は決して良い場所ではないため、検出遺構はあまりなく遺跡の規模も小さいものですが、山間部においても地形等の条件さえ整えば、規模は小さいながらも遺跡が存在することが判明したことは大きな成果でした。

これらの調査成果が、今後地域研究に役立てていただき、さらに文化財へのご理解を深めていただければ幸いに存じます。

なお、調査に際して、南那珂農林振興局をはじめ、北郷町教育委員会並びに地元の方々のご協力に対し感謝申し上げます。

平成6年3月

宮崎県教育委員会

教育長 高山 義孝

例 言

- 1 本書は、沿海南部地区広域農道建設事業に伴う南那珂郡北郷町谷合第1・谷合第2・大塚の3遺跡の報告書である。
- 2 本報告書で使用した遺構等の実測図は、各調査担当者が作成した外、大塚遺跡については、北郷町教育委員会社会教育課主事時元省三氏の協力を得ている。
- 3 遺物・図面の整理は、埋蔵文化財センターで行い、遺物の実測・拓本等については整理補助員の協力を得てこれを行った。
- 4 本報告書で使用した写真は、各調査担当者が作成した。
- 5 本書で使用した方位は、すべて磁北である。
- 6 本書で使用した記号は次のとおりである。
SC…土坑 SE…溝状遺構
- 7 本書の執筆は、各調査担当者が分担して行なった。
- 8 出土遺物及び調査記録等は、宮崎県総合博物館埋蔵文化センターに収蔵している。

本文目次

I はじめに

第1節 遺跡の位置	1
第2節 調査に至る経緯	2

II 谷合第1遺跡

第1節 調査の概要	5
-----------	---

III 谷合第2遺跡

第1節 調査の概要	7
第2節 層位	7
第3節 遺構	7
第4節 遺物	12
第5節 まとめ	17

IV 大塚遺跡

第1節 調査の概要	28
第2節 調査の結果	28

挿 図 目 次

第1図 遺跡の位置	1
第2図 遺跡周辺地形図	4
第3図 谷合第1遺跡第6トレンチおよびI区1トレンチ土層図	5
第4図 谷合第1遺跡地形図及びトレンチ配置図	6
第5図 谷合第2遺跡遺跡周辺地形及び発掘区位置図(1/1,500)	8
第6図 ♪ A地区遺構・遺物分布図(1/400)	9
第7図 ♪ B地区遺構・遺物分布図(1/400)	9
第8図 ♪ A地区土層図(1/80)	10
第9図 ♪ ピット(1/40)	11
第10図 ♪ 出土縄文土器(1/4)	13
第11図 ♪ 出土石皿(1/8)	14
第12図 ♪ 出土石器類(1/4)	15
第13図 ♪ 出土磁器・磁石(1/2)	16

第14図	大塚遺跡地形図及びトレンチ配置図	29
第15図	◇ 遺構分布図・土層図	30
第16図	◇ 出土遺物(1/3)	31

表 目 次

表 1	谷合第 2 遺跡遺構一覧表	10
表 2	谷合第 2 遺跡遺物一覧表	18-20
表 3	大塚遺跡出土遺物観察表	32

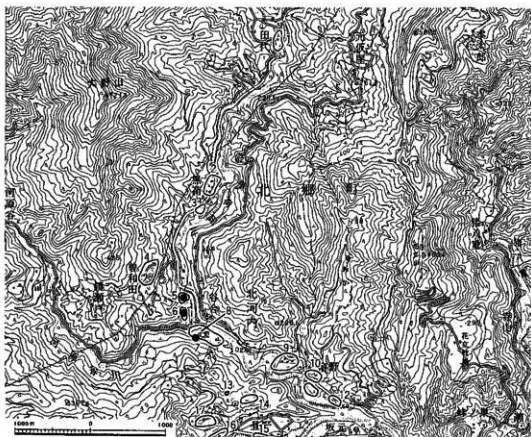
図 版 目 次

図版 1	谷合第 2 遺跡遠景／発掘調査前全景	21
図版 2	B 地区発掘前風景(A 地区から)／工事後の谷合第 2 遺跡(北から)	22
図版 3	磁器出土状況	23
図版 4	ピット検出状況	24
図版 5	出土遺物：縄文土器・石器(番号は実測図と同一)	25
図版 6	出土遺物：石器(番号は実測図と同一)	26
図版 7	P 1 検出磁器破砕状況／出土遺物：石器(番号は実測図と同一)	27
図版 8	大塚遺跡近景／調査区南半部／第 5 トレンチ掘出土状況	33
図版 9	S E 1 土層／出土遺物(表)／出土遺物(裏)	34

I はじめに

第1節 遺跡の位置

広渡川の支流である黒荷田川は、北郷町と田野町との境界となっている大戸野越に源を発し、鵜塚山地間の深い谷を南流している。谷合で流路を南東に変え、坂元で広渡川と合流している。黒荷田川の流路沿いの中で谷間のやや広い部分では盆地状地形が見られ、狭い部分でも河川の両側の山腹には河岸段丘状の緩斜面が見られる部分がある。河岸段丘状の緩斜面と河川との比高差は、10数mはあり急崖となっている。遺跡は、この河岸段丘状の緩斜面や盆地状地形上に立地している。今回報告する谷合第1遺跡・谷合第2遺跡・大塚遺跡は、谷合の北面する標高約125mの河岸段丘状の緩斜面上に立地している。緩斜面は谷により分断され、各緩斜面に遺跡がある。



- 発掘調査地点 1.田代遺跡 2.黒荷田遺跡 3.瀬之口遺跡 4.曾和田遺跡
5.谷合第1遺跡 6.谷合第2遺跡 7.大塚遺跡 8.可指定大塚古墳 9.前田遺跡
10.宮の後遺跡 11.宮の前遺跡 12.牧野遺跡 13.池之上遺跡 14.屋野上遺跡
15.銀代田遺跡 16.中須賀遺跡 17.桑津留遺跡

第1図 遺跡の位置

黒河田川沿いに分布する遺跡は、今回報告する遺跡の他には、9遺跡ほどが確認されている。この中で時期等がある程度判明している遺跡は少ない。この中で試掘等の発掘調査が実施されている遺跡は、中萩遺跡・曾和田遺跡の2遺跡のみである。

中萩遺跡は、黒河田川最上流の大戸野越付近に所在し標高430mで南面する尾根上に立地する。集石遺構を伴う縄文早期及び弥生後期の遺跡であり、小規模ながらこの様な高所に弥生時代の遺跡が所在することは注目される。谷合第2遺跡の北西500mに位置する曾和田遺跡は標高220mに所在する。当地は東面する緩斜面で縄文後期の遺跡であるが、以前に時期不詳の礫石経塚も発見されている。

その他の遺跡については表採資料のみである。その資料を見ると縄文土器小片が多く、田代遺跡で中世、瀬之口遺跡で弥生土器？、宮の後遺跡で近世？の遺物が採集されているのみで、縄文時代の遺跡と推定される遺跡が多い。

第2節 調査に至る経緯

宮崎県では、農業団地育成対策のうち流通形成を図るため広域営農団地育成対策事業の一つとして、地域の基幹となる作物の生産から流通加工までの流通道路として基幹農道の整備を図るため、沿海中部地区、沿海北部地区、沿海南部地区等で広域営農団地農道整備事業（通称「広域農道」）の建設を進めている。

沿海南部地区は、昭和55年度より事業に着手している。沿海南部第3期地区の日南市寺村一日南市山ノ口間7.5km・北郷町豊野～同町谷合間3.02kmについては、農業振興課から昭和59年3月30日付けで路線予定地内の文化財の所在の有無について照会があった。照会地については同年5月南那珂農林振興局・当該市町教育委員会と合同で分布調査を行い、日南市部分では遺物散布地4か所と地形上遺跡の可能性のある箇所1か所、北郷町部分では遺物散布地3か所と地形上遺跡の可能性のある箇所1か所が確認された。その際、北郷町谷合では、予定路線が町指定の大塚古墳に近接していたので、なるべく路線を南側の山際にするよう現地で依頼した。調査結果については同年6月回答し、また、振興局・当該市町教育委員会へも通知している。分布調査後の路線確定に際しての振興局から具体的な協議は成されないまま確定された路線は、文化財の所在の有無について照会時の路線とは異なっているが、大塚古墳については影響を与えないよう両側へ変更されている。

分布調査で確認された遺跡の中で、昭和63年度、谷合地区の谷合第1遺跡から工事に着手することになった。発掘調査は、2,300㎡を調査対象として昭和63年9月5日から10月29日までの予定で着手したが、遺物等がまったく検出されず、9月14日に調査を終了している。

大塚古墳の關係で路線が南側によったため、当初通過予定でなかった国有林内の東面し南北に長い緩斜面の東端を通過することになっていた。当地で遺物等の散布は確認されなかったが、地

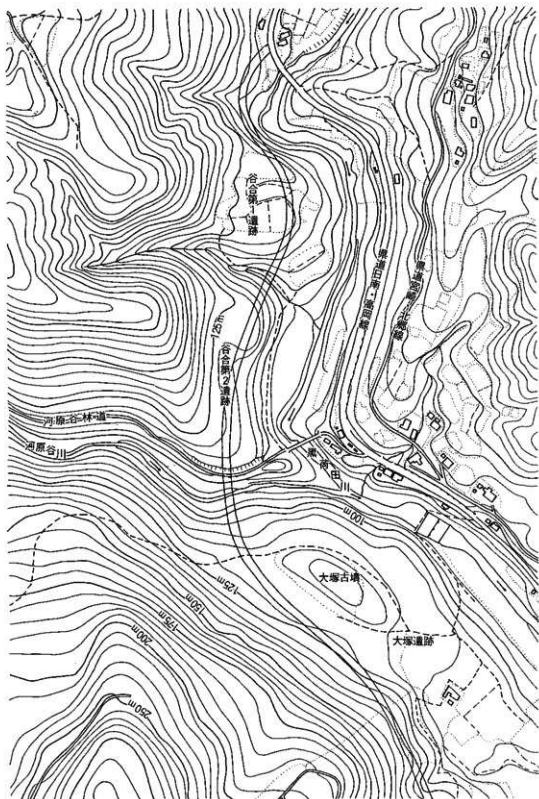
形上遺跡の可能性があったので、谷合第1遺跡の調査終了後の9月28日試掘調査を実施した。その結果、2次アカホヤで時期不詳の縄文土器片、黒曜石等が出土したので、遺跡名を谷合第2遺跡とした。発掘調査は、工事着手年度の平成2年5月10日から8月10日まで実施した。

大塚遺跡には町指定の大塚古墳が所在し、また、古墳の東平坦部には弥生時代と推定される土器片が散布している。広域農道は、古墳の南側の山際の緩斜面を通過している。路線内では竹林等で遺物の散布は確認されていないが、土器片が散布している平坦部につながる緩斜面である。そのため平成3年7月22日から31日まで試掘調査を実施し数点ではあるが縄文後期の土器片が出土したので、同年11月25日から12月9日まで発掘調査を実施した。

3遺跡の調査組織は次のとおりである。

調査主体 宮崎県教育委員会

教 育 長	児玉 郁夫(昭和63年度～平成2年度)	高山 義孝(平成3年度)
教 育 次 長	山木 一磨(昭和63年度)	高山 義孝(昭和63年度)
	高山 義孝(平成2年度)	増井 宏(平成2年度)
	安田 天祥(平成3年度)	宮路 幸雄(平成3年度)
文 化 課 長	久徳 菊雄(昭和63年度)	梨岡 孝(平成2年度)
	長友 巖(平成3年度)	
課 長 補 佐	木幡 文夫(昭和63年度)	刀野坂次夫(平成2年度)
	串間 安園(平成3年度)	
主幹兼庶務係長	小倉 茂光(昭和63年度～平成2年度)	
庶 務 係 長	税田 輝彦(平成3年度)	
庶 務 担 当	串間 俊也(昭和63年度)	長友 広海(平成2・3年度)
埋蔵文化財係長	岩水 哲夫	
調 査 担 当	面高 哲郎(昭和63年度)	谷合第1遺跡)
	石川 悦雄(平成2年度)	谷合第2遺跡)
	面高 哲郎(平成3年度)	大塚遺跡)
調 査 協 力	北郷町教育委員会	宮崎県南那珂農林振興局



第2図 遺跡周辺地形図

II 谷合第1遺跡

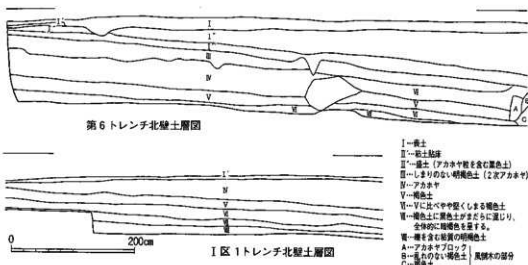
第1節 調査の概要

広域遺跡の立地する緩斜向は、舌状を呈し中央部に小谷が走り南北の2区に分けられる。広域農道は、北区の中央部から南区縁辺部を通過している。

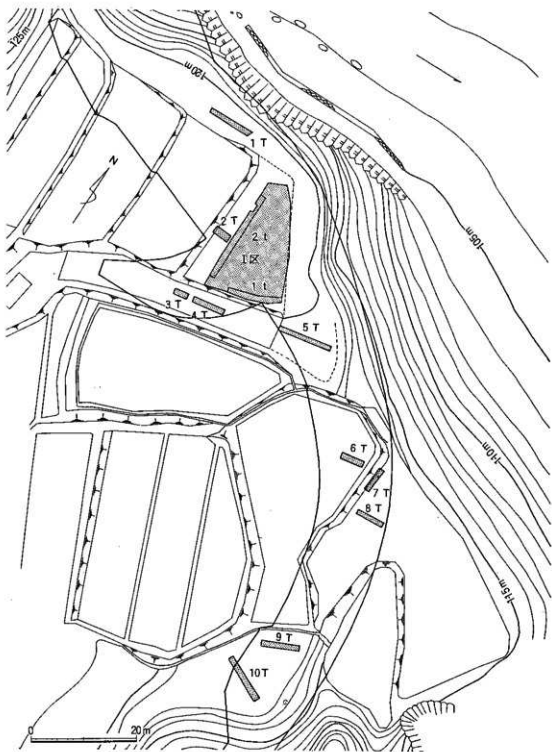
調査は、土器小片が散布していた(第3-5トレンチの水田)の上の調査対象地の中で最も広い面積の水田(I区)から着手した。表土を除去したところ、開田の際に削平を受けていたため、表土下はアカホヤとなっていた。表土を除去中において遺物はまったく出土せず、アカホヤ面においても遺構の痕跡すら確認されなかった。I区については上層確認とアカホヤ下位に遺物包蔵層の所在の有無の確認のため西壁と南壁のサブトレンチを設定して調査を進めたが、遺物包蔵層は確認されなかった。分布調査で土器小片を採集した水田にも第3-5トレンチを設定し調査を行ったが、この地点も開田の際に削平を受けており、アカホヤ層の上位については消滅している。遺物等は出土していない。

調査対象地の中で最も遺物等の出土が期待されたI区で遺物・遺構等がまったく検出されなかったため、その後の調査は、トレンチ法で実施した。第1・7トレンチでは表土下は黒色土で、第2-6・8-10・12トレンチではアカホヤ層となっている。11トレンチでは裸層である。各トレンチでも遺物等は出土していない。

調査の結果から、当地の基本層序は、第I層表土、第II層黒色土、第III層締まりのない明褐色土(2次アカホヤ)、第IV層アカホヤ、第V層褐色土、第IV層第V層に比べやや堅く締まる褐色土、第VI層黒色に褐色土が混じり全体に暗褐色を呈する、第VII層礫を含む粘質の明褐色土となっていること確認される。分布調査では土器小片が採集されているが、発掘調査で遺物等はまったく出土しなかったため、遺跡の規模等は小規模ですでに開田の際に削平により消滅していると判断し、調査は1週間程で終了した。



第3図 谷合第1遺跡第6トレンチおよびI区1トレンチ土層図



第4図 谷合第1遺跡地形図及びトレンチ配置図

Ⅲ 谷合第2遺跡

第1節 調査の概要（第5図・6図・7図）

昭和63年度の試掘の結果に基づいて、道路予定地にA、Bの2発掘区を設定した。A地区は幅約50m、深さ20mの谷を隔てて北側にある谷合第2遺跡に対峙している。B地区は湧水の流下する小規模な谷を挟んでA地区の南に位置する。調査は遺構検出の困難な黒色土を重機で除去し、A地区では縄文時代のものと思われる土壌P4-6、近世の柱穴P1、P2、近世と思われる土壌P3の6つのピットを検出した。B地区では時期不祥の長方形土壌2基、円形土壌2基、柱穴1及び溝1本を検出した。遺構出土の遺物は多くなく、P1・P2の埋土から検出した染付類、P5埋土検出の縄文土器片程度であった。大部分の遺物は包含層から出土した。A地区では縄文式などの縄文前期土器、晩期の刻目突帯文土器、精製磨研土器及び石皿、石核、剥片、チップ等の石器類が検出された。B地区では曾畑式など縄文前期土器と石匙、石鏃などの石器類が出土した。土器類はいずれも破片で検出され、完形に近く復元できたものは無かった。

第2節 層位（第8図）

遺跡の基本層序は、上から厚さ25~40cmの、現地表に連なる黒色土、60cm前後の2次堆積アカホヤ火山灰、40cm程度のプライマリーなアカホヤ火山灰、灰褐色粘質土の順に堆積している。黒色土面で遺構を確認することは難しく、2次堆積アカホヤ層上面での検出となった。磁器など近世の遺物は黒色土中で、縄文時代の石器、土器は2次アカホヤ層上面及び層中で検出した。

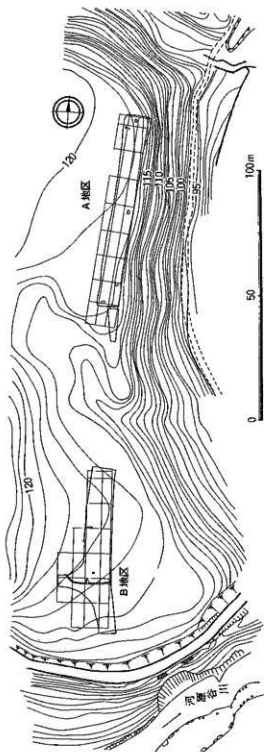
第3節 遺構（第9図、表1）

P1はAH2区で検出した円形土壌である。径60cm、深さ20cmの規模を持ち、埋土は黒色土の単一層である。規模形状から掘立柱建物等の柱穴の可能性がある。埋土中から第13図41から48に図示した染付等の磁器片多数が出土した。

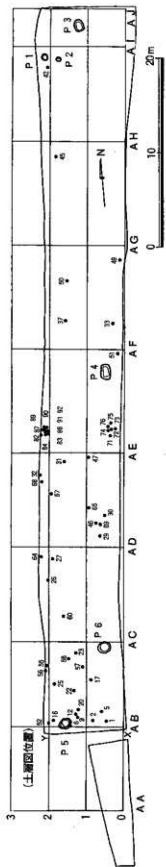
P2はAH1区で検出した。径約44cm、深さ45cmの円形小土壌で、P1同様、形状規模から掘立柱建物等の柱穴の可能性がある。黒色土の単一層からなる埋土からは、第13図49の染付片が出土した。

P3はAI1区で検出した。長径127cm、短径90cm、深さ20cm程の船底状の形態をした平面不整形円形の土壌である。遺物は出土しなかった。埋土の状況からP1、P2と同様近世以降に掘削された可能性がある。

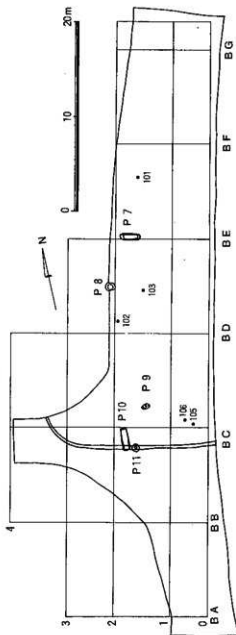
P4はAE0区で検出した。長さ160cm、幅100cm、深さ33cmの長方形土壌で、遺物等は検出できなかった。埋土は上層からアカホヤ細粒を含んだ黒色土、アカホヤ細粒を多く含んだ褐色土、やや汚れた2次アカホヤの順に堆積していた。土壌の壁面は2次アカホヤ、底面はアカホヤである。



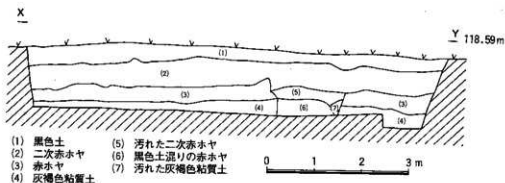
第5図 遺跡周辺地形図及び発掘区位置図(1/1,500)



第6图 A地区遺構・遺物分布図 (1/400)



第7图 B地区遺構・遺物配置図 (1/400)



第8図 A地区土層図(1/80)

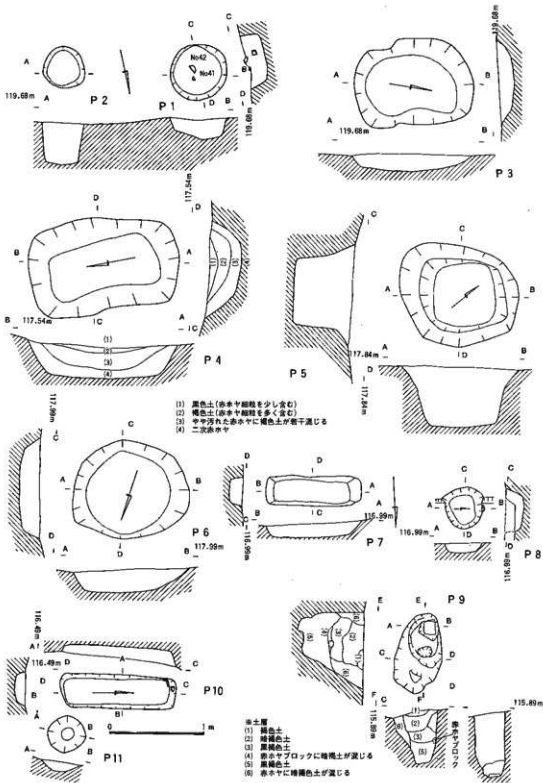
表1 谷合遺跡遺構一覽表

遺構名	形状	検出区	規模	時期	出土遺物	備考
ピット1(P-1)	円形	AH2	60×60×20cm	近世	陶磁器	
ピット2(P-2)	円形	AH1	44×43×45cm	近世	陶磁器	
ピット3(P-3)	不整円形	A11	127×90×20cm	不明		
ピット4(P-4)	不整長方形	AE0	160×100×33cm	不明		
ピット5(P-5)	不整方形	AA1, AB1	125×110×63cm	縄文?	縄文土器	精製磨研浅鉢等
ピット6(P-6)	楕円形	AB0	121×106×24cm	不明		
ピット7(P-7)	長方形	BE1	102×30×18cm	不明		
ピット8(P-8)	不整円形	BD1, BD2	45×30×10cm	不明		
ピット9(P-9)	不整円形	BC1	85×50×70cm	不明		炭化物、柱穴
ピット10(P-10)	長方形	BB1	121×35×15cm	不明		
ピット11(P-11)	円形	BB1	40×30×10cm	不明		
溝1(D-1)		BB0, 1, 2, 3, BC3	幅40cm	不明		

P5はAA1区、AB1区に跨って検出された。検出面では長125cm、幅110cmの不整形を呈しているが、底面では、長さ65cm程の隅丸方形である。深さはおよそ63cmで、埋土は黒色土の単一層であった。埋土から精製磨研浅鉢の胴部小片等が少量出土した。

P6はAB0区で検出した。検出面の長径121cm、短径106cm、深さ24cmの楕円形土壇だが、底面では径およそ85cmの円形を呈している。埋土は黒色土単一層である。遺物は検出されなかった。

P7はBE1区で検出した。長さ102cm、幅30cm、深さ18cmの長方形土壇で埋土は黒色土単一層である。遺物は検出できなかった。



第9図 ピット(1/40)

P 8はBD 1区からBD 2区にかけて検出された。土壌の規模は径46cm以上あり、円方不明瞭な形状をしている。発掘区の境にあり掘り込み面は少なくとも2次アカホヤ面以上である。埋土は黒色土単一層であり遺物の検出は無かった。

P 9はBC 1区で検出した。検出面は長径85cm、短径50cmの不整形円形、底面は長径が40cm、短径が30cmの楕円形を呈している。底面は2段に掘削されていて、西端におよそ20cm四方の方形の掘り込みが見られる。その底部までの深さは約70cmである。埋土は上から褐色土、暗褐色土、黒褐色土、黒褐色粘質土の順に堆積していて、壁際には暗褐色土にアカホヤが混ざった埋土が認められた。遺物は検出できなかったが、埋土上層に少量の炭化物が混入していた。

P 10はBB 1区で検出した。長さ121cm、幅35cm、深さ15cmの規模を持つ長方形土壌である。埋土は黒色土単一層で遺物は見られなかったが、北木門部に礫が浮いた状態で検出された。

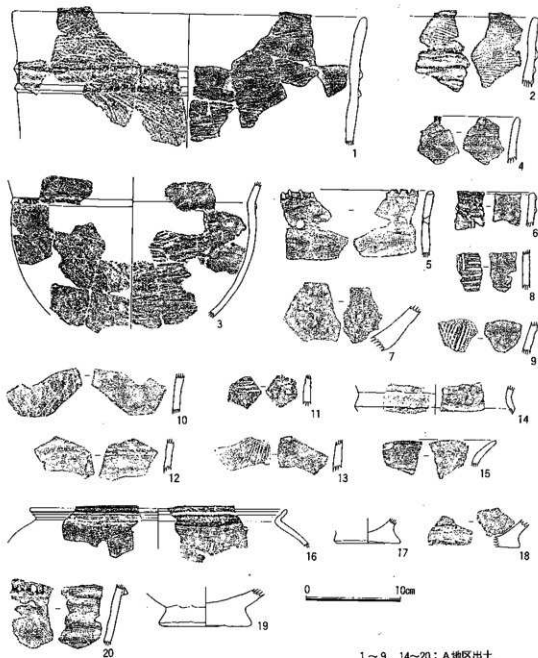
P 11はBB 1区で検出した。径約40cm、深さ10cmの円形土壌で、浅い楕円状を呈している。埋土は黒色土単一層で遺物等は検出されなかった。

溝はBB 1区からBC 3区にかけて検出した。幅約40cm、深さ約10cm内外の小規模な溝である。黒荷田川に沿った斜面からはほぼ東西に掘られていて、BB 3区とBB 4区の境付近から弧状に北へ湾曲している。発掘区の外に延びていて全貌はわからない。遺物の出土は無く時期は不明で、埋土は黒色土である。

第4節 遺物 (第10図、第11図、第12図、第13図、表2)

縄文土器及び石器類はA地区、B地区共に出土しているが、B地区の出土遺物は少なかった。分布はAB区、AE区を中心にその附近に集中する。完形あるいは大きな破片は無く、小破片で散在していた。竊B式と晩期精製磨研土器の殆どはP 5附近のAB 1、2区から検出され接合も近辺出土のものに限られていた。曾畑式は、AE、AF区附近とBC 0区の2箇所にかたまって検出された。近世の磁器類はすべてA地区のP 1、P 2及びその近辺から出土した。

縄文土器 (第10図) 1、2は竊B式の口縁部から突帯部分にかけての破片で、両者とも内外面調整は貝殻条痕だが、1は突帯が2条、2は突帯が3条である。1の復元口径は37cm前後だが、それより小さくなる可能性が高い。3は頸部がくびれて胴部が丸くなる浅鉢で、頸部の復元径は26cm程度である。頸部には小さな突帯が1条巡っている。突帯は細かな押圧刻みがほどこされ、部分的に貝殻復縁による刻みも認められる。器面調整は外面が丁寧なナデ、内面が貝殻条痕である。沈線は見られないものの深溝式の系統と思われる。6は3に類似した口縁部で、口唇部直下に2条の細突帯が施され、細かな丸い押圧刻みが施されている。器面調整は内外とも丁寧なナデである。4、5は同一個体と考えられる深鉢の口縁部で、口唇部に押圧刻みが施されている。器面調整は内外面とも細かな貝殻条痕である。5は焼成後穿孔されている。8、9、10、12、13は

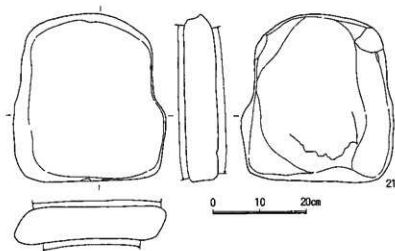


1~9、14~20：A地区出土
10~13：B地区出土

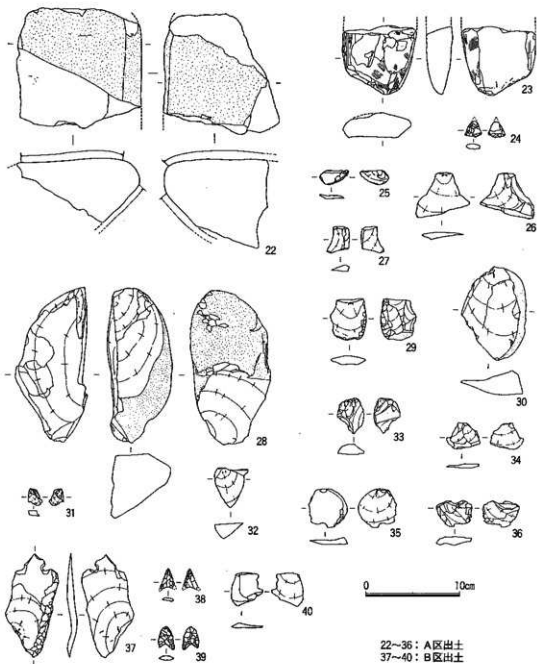
第10图 縄文土器(1/4)

皆畑式の内でも比較的新しい時期の深鉢胴部片である。8、9の沈線文が比較的深く、丁寧に施されているが、10、13は折帯文が軽で浅い。11は塞ノ神式の深鉢胴部片で、内面はナデ調整されている。器表は網目燕糸文が施されている。14から20は晩期の土器片である。14は半精製浅鉢の胴部片で器面調整は内外共丁寧なナデである。胴部屈曲部の復元径はおよそ17cmである。15は半精製鉢の口縁部で内外面とも丁寧にナデ調整されている。外面下端に沈線が1条施されている。16は内外面とも研磨調整された精製磨研浅鉢で口縁部の内外面にそれぞれ1条の沈線が施されている。口縁部の復元径は約27cmである。17、18、19、は晩期に特有の張り出し底で、器面は内外ともナデ調整されている。20は刻目突帯文土器の胴部片で、内外面とも細かな貝殻条痕が施された後一部ナデ消されている。突帯は丁寧に成型された三角突帯で、刻目は鋭く深く刻まれている。

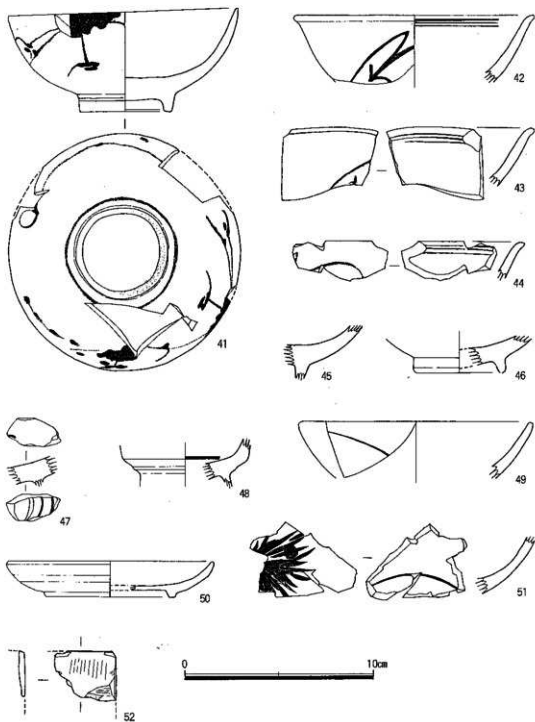
石器 (第11図、第12図) 石器には石皿、磨製石斧、打製石鏃、石匙、スクレイパーがあり、その他に石核、剥片、チップ類が検出された。21、22は砂岩製の石皿で、21は長さ35.6cm、幅32.2cm、厚さ7cm、重量15.5kgの大きさである。両面とも使用されている。23は半折している



第11図 石皿 (1/8)



第12图 石器類(1/4)



第13圖 磁器・磁石 (1/2)

石斧の刃部附近と思われる。複雑に磨かれている。24は黒曜石、38は姫島産黒曜石、39はチャート製の打製石鏃である。37は頁岩製の石匙で、長さ10.6cm、幅4.7cm、刃部の長さ9.2cmの比較的大型の石匙である。縦長の剥片をそのまま利用し、つまみと平行に刃部が形成されている。25、29はスクレイパーで、29は姫島産黒曜石が使用されている。32は頁岩の剥片で、27、28、30、34、36、40は流紋岩の石核、剥片、チップ類である。以上の石器は縄文時代のもと考えられるが、1点だけ近世以降の砥石（第13図52）が検出された。

磁器（第13図） 41～44、47～49、51は染付、45、46は国産青磁である。41はほぼ完形に復元できた唯一の磁器で、口径12.3cm、器高5.3cmを測る。口縁部が端反の42から44は同一個体と考えられる。41、45、46は蛇の目軸刺ぎが施されている。50は近世末から明治時代にかけての印判皿である。

第5節 まとめ

谷合第2遺跡は、遺構の分布がまばらで、時期が判明するものは近世のP1、P2および縄文晩期の可能性のあるP5だけである。縄文時代の遺物も二次堆積のアカホヤ層中に散見されるだけで顕著な纏まりが見られなかった。従って、非常に小規模な営みの痕跡であるか、集落の主体は幾分山際であり、その遺物が廃棄された、もしくは流れ込んだかのいずれかの性格を持つと考えられる。近世においても、建物跡等は確認できなかった。しかし柱穴P1に廃棄された磁器類は徹底した破砕を受けており、この遺跡では深く追求することは不可能だが、そこに何等かの祭祀たとえば、家の廃絶の祭などの存在を考えてみる必要があるかもしれない。

縄文土器は、早期の塞ノ神式1点、晩期の磨研土器少量を除けば、殆どが前期から中期にかけてのものと思われた。轟B、曾畑の新相の他に、柴畑光博が中期前葉に設定したⅢ類（突帯文系土器）に類似する第10図6などの存在が注目される。

(注)

柴畑光博 「南部九州における縄文時代前期末から中期前葉の土器について」『鹿児島考古』
第27号 1983

表2 谷合遺跡遺物一覧表(1)

谷合遺跡番号	出土区	洲原田番号	器種等	部位	遺存度	時期	内子	備考
11	B地区 瓦葺	11	漆鉢(漆ノ丹式?)	胴部	破片	縄文中期		
12	A地区 瓦葺	23	縄文土器?	胴部	破片	縄文		
13	ACC地区 瓦葺	36	銅片					漆紋付
14	B地区 瓦葺	31	銅片					黒緑石
15	A地区 瓦葺	53	銅片					
16	A地区 瓦葺	29	スプレイバー	用形				銅片 遺物
17	A地区 瓦葺	25	銅片					銅片
18	B地区 瓦葺	40	銅片					銅片
19	A地区 P1-1	41	銅片					銅片
20	A地区 P1-2	42	銅片					銅片
21	A地区 P1	43	銅片					銅片
22	A地区 P1	44	銅片					銅片
23	A地区 P1	45	銅片					銅片
24	A地区 P1	46	銅片					銅片
25	A地区 P1	47	銅片					銅片
26	A地区 P1	48	銅片					銅片
27	A地区 P1	49	銅片					銅片
28	A地区 P1	50	銅片					銅片
29	A地区 P1	51	銅片					銅片
30	A地区 P1	52	銅片					銅片
31	A地区 P1	53	銅片					銅片
32	A地区 P1	54	銅片					銅片
33	A地区 P1	55	銅片					銅片
34	A地区 P1	56	銅片					銅片
35	A地区 P1	57	銅片					銅片
36	A地区 P1	58	銅片					銅片
37	A地区 P1	59	銅片					銅片
38	A地区 P1	60	銅片					銅片
39	A地区 P1	61	銅片					銅片
40	A地区 P1	62	銅片					銅片
41	A地区 P1	63	銅片					銅片
42	A地区 P1	64	銅片					銅片
43	A地区 P1	65	銅片					銅片
44	A地区 P1	66	銅片					銅片
45	A地区 P1	67	銅片					銅片
46	A地区 P1	68	銅片					銅片
47	A地区 P1	69	銅片					銅片
48	A地区 P1	70	銅片					銅片
49	A地区 P1	71	銅片					銅片
50	A地区 P1	72	銅片					銅片
51	A地区 P1	73	銅片					銅片
52	A地区 P1	74	銅片					銅片
53	A地区 P1	75	銅片					銅片
54	A地区 P1	76	銅片					銅片
55	A地区 P1	77	銅片					銅片
56	A地区 P1	78	銅片					銅片
57	A地区 P1	79	銅片					銅片
58	A地区 P1	80	銅片					銅片
59	A地区 P1	81	銅片					銅片
60	A地区 P1	82	銅片					銅片
61	A地区 P1	83	銅片					銅片
62	A地区 P1	84	銅片					銅片
63	A地区 P1	85	銅片					銅片
64	A地区 P1	86	銅片					銅片
65	A地区 P1	87	銅片					銅片
66	A地区 P1	88	銅片					銅片
67	A地区 P1	89	銅片					銅片
68	A地区 P1	90	銅片					銅片
69	A地区 P1	91	銅片					銅片
70	A地区 P1	92	銅片					銅片
71	A地区 P1	93	銅片					銅片
72	A地区 P1	94	銅片					銅片
73	A地区 P1	95	銅片					銅片
74	A地区 P1	96	銅片					銅片
75	A地区 P1	97	銅片					銅片
76	A地区 P1	98	銅片					銅片
77	A地区 P1	99	銅片					銅片
78	A地区 P1	100	銅片					銅片
79	A地区 P1	101	銅片					銅片
80	A地区 P1	102	銅片					銅片
81	A地区 P1	103	銅片					銅片
82	A地区 P1	104	銅片					銅片
83	A地区 P1	105	銅片					銅片
84	A地区 P1	106	銅片					銅片
85	A地区 P1	107	銅片					銅片
86	A地区 P1	108	銅片					銅片
87	A地区 P1	109	銅片					銅片
88	A地区 P1	110	銅片					銅片
89	A地区 P1	111	銅片					銅片
90	A地区 P1	112	銅片					銅片
91	A地区 P1	113	銅片					銅片
92	A地区 P1	114	銅片					銅片
93	A地区 P1	115	銅片					銅片
94	A地区 P1	116	銅片					銅片
95	A地区 P1	117	銅片					銅片
96	A地区 P1	118	銅片					銅片
97	A地区 P1	119	銅片					銅片
98	A地区 P1	120	銅片					銅片
99	A地区 P1	121	銅片					銅片
100	A地区 P1	122	銅片					銅片
101	A地区 P1	123	銅片					銅片
102	A地区 P1	124	銅片					銅片
103	A地区 P1	125	銅片					銅片
104	A地区 P1	126	銅片					銅片
105	A地区 P1	127	銅片					銅片
106	A地区 P1	128	銅片					銅片
107	A地区 P1	129	銅片					銅片
108	A地区 P1	130	銅片					銅片
109	A地区 P1	131	銅片					銅片
110	A地区 P1	132	銅片					銅片
111	A地区 P1	133	銅片					銅片
112	A地区 P1	134	銅片					銅片
113	A地区 P1	135	銅片					銅片
114	A地区 P1	136	銅片					銅片
115	A地区 P1	137	銅片					銅片
116	A地区 P1	138	銅片					銅片
117	A地区 P1	139	銅片					銅片
118	A地区 P1	140	銅片					銅片
119	A地区 P1	141	銅片					銅片
120	A地区 P1	142	銅片					銅片
121	A地区 P1	143	銅片					銅片
122	A地区 P1	144	銅片					銅片
123	A地区 P1	145	銅片					銅片
124	A地区 P1	146	銅片					銅片
125	A地区 P1	147	銅片					銅片
126	A地区 P1	148	銅片					銅片
127	A地区 P1	149	銅片					銅片
128	A地区 P1	150	銅片					銅片
129	A地区 P1	151	銅片					銅片
130	A地区 P1	152	銅片					銅片
131	A地区 P1	153	銅片					銅片
132	A地区 P1	154	銅片					銅片
133	A地区 P1	155	銅片					銅片
134	A地区 P1	156	銅片					銅片
135	A地区 P1	157	銅片					銅片
136	A地区 P1	158	銅片					銅片
137	A地区 P1	159	銅片					銅片
138	A地区 P1	160	銅片					銅片
139	A地区 P1	161	銅片					銅片
140	A地区 P1	162	銅片					銅片
141	A地区 P1	163	銅片					銅片
142	A地区 P1	164	銅片					銅片
143	A地区 P1	165	銅片					銅片
144	A地区 P1	166	銅片					銅片
145	A地区 P1	167	銅片					銅片
146	A地区 P1	168	銅片					銅片
147	A地区 P1	169	銅片					銅片
148	A地区 P1	170	銅片					銅片
149	A地区 P1	171	銅片					銅片
150	A地区 P1	172	銅片					銅片
151	A地区 P1	173	銅片					銅片
152	A地区 P1	174	銅片					銅片
153	A地区 P1	175	銅片					銅片
154	A地区 P1	176	銅片					銅片
155	A地区 P1	177	銅片					銅片
156	A地区 P1	178	銅片					銅片
157	A地区 P1	179	銅片					銅片
158	A地区 P1	180	銅片					銅片
159	A地区 P1	181	銅片					銅片
160	A地区 P1	182	銅片					銅片
161	A地区 P1	183	銅片					銅片
162	A地区 P1	184	銅片					銅片
163	A地区 P1	185	銅片					銅片
164	A地区 P1	186	銅片					銅片
165	A地区 P1	187	銅片					銅片
166	A地区 P1	188	銅片					銅片
167	A地区 P1	189	銅片					銅片
168	A地区 P1	190	銅片					銅片
169	A地区 P1	191	銅片					銅片
170	A地区 P1	192	銅片					銅片
171	A地区 P1	193	銅片					銅片
172	A地区 P1	194	銅片					銅片
173	A地区 P1	195	銅片					銅片
174	A地区 P1	196	銅片					銅片
175	A地区 P1	197	銅片					銅片
176	A地区 P1	198	銅片					銅片
177	A地区 P1	199	銅片					銅片
178	A地区 P1	200	銅片					銅片
179	A地区 P1	201	銅片					銅片
180	A地区 P1	202	銅片					銅片
181	A地区 P1	203	銅片					銅片
182	A地区 P1	204	銅片					銅片
183	A地区 P1	205	銅片					銅片
184	A地区 P1	206	銅片					銅片
185	A地区 P1	207	銅片					銅片
186	A地区 P1	208	銅片					銅片

表2 谷合遺跡遺物一覽表(2)

谷合遺跡番号	内子区	集積回番号	型番号	部位	遺付品	行跡	調査	備考
33	AF10区	22	T1皿		破片	焼文		俗器
37	AF1区		磁片	底部	磁片	焼文		
42	AB2区	7	漆鉢			焼文	内外、ナデ	
45	AG1区	33	スチレイロ一			焼文		
46	AD0区	34	磁片			焼文		底底片
47	AD0区		ナツブ			焼文		
49	AF1区	8	漆鉢(樽形心)	蓋部	磁片	焼文(滑潤)	内外、ナデ	新
50	AF1区	17	漆鉢	蓋部	1/1	焼文(滑潤)	内外、ナデ	
51	AB0区	9	漆鉢(竹筒状)	胴部	磁片	焼文(滑潤)	内外、ナデ	
52	AB1区	19	漆鉢	底部	磁片	焼文(滑潤)	内外、ナデ	
55	AB1区	1	漆鉢(樽形心)	L1縁部	磁片	焼文(滑潤)	内外、黒縁赤裏	原形ナデ、分銅(原形)23.56、57と組合
56	AB1区	1	漆鉢(樽形心)	口縁部	磁片	焼文(滑潤)	内外、黒縁赤裏	次形ナデ、分銅(原形)23.56、57と組合
57	AB1区	1	漆鉢(樽形心)	口縁部	磁片	焼文(滑潤)	内外、黒縁赤裏	原形ナデ、分銅(原形)21.55、56と組合
57	AB1区	2	漆鉢(樽形心)	口縁部	磁片	焼文(滑潤)	内外、黒縁赤裏	原形ナデ
57	AB1区		磁片			焼文		
58	AB1区		漆鉢	口縁部	磁片	焼文(滑潤?)	内外、黒縁赤裏、黒じ?	
60	AC1区	33	ナツブ			焼文		
64	AC1区		漆鉢(樽形心?)	胴部	磁片	焼文(滑潤?)	外、ナデ	次形
65	AD0区	6	漆鉢	口縁部	磁片	焼文	内外、ナデ	次形ナデ
67	AD1区		漆鉢(樽形心)	胴部	磁片	焼文(滑潤)	内外、黒縁赤裏	原形
68	AD1区	28	磁片			焼文		蓋部15.5kg、砂片
69	AD0区	21	石皿		瓦形	焼文		分銅(原形)72.72と組合、北朝国23と同一個体か?
71	AD1区		漆鉢(筒形筒形文)	胴部	磁片	焼文(滑潤)	内外、黒縁赤裏	
72	AD1区		漆鉢(筒形筒形文)	胴部	磁片	焼文(滑潤)	内外、黒縁赤裏	分銅(原形)71.72と組合
73	AD1区		漆鉢(筒形筒形文)	胴部	磁片	焼文(滑潤)	内外、黒縁赤裏	分銅(原形)71.72と組合
74	AD1区		ナツブ			焼文		
75	AD1区	20	漆鉢(筒形筒形文)	胴部	磁片	焼文(滑潤)	内外、黒縁赤裏	口縁部(原形)75と同一個体か?
75	AD1区	4	漆鉢	口縁部	磁片	焼文	内外、黒縁赤裏	地底底片、口縁部(原形)75と同一個体か、北朝国23と同一個体か?
76	AD1区	5	漆鉢	口縁部	磁片	焼文	内外、黒縁赤裏	地底底片、口縁部(原形)75と同一個体か、北朝国23と同一個体か?
82	AB1区		漆鉢	胴部	磁片	焼文(滑潤?)	内外、ナデ	原形(原形)72.72と組合、北朝国23と同一個体か?
83	AB1区		漆鉢	胴部	磁片	焼文(滑潤?)	内外、ナデ	原形(原形)72.72と組合、北朝国23と同一個体か?
84	AB1区	3	漆鉢	胴部	磁片	焼文(滑潤?)	内外、黒縁赤裏	原形(原形)72.72と組合、北朝国23と同一個体か?
86	AE1区	3	漆鉢	口縁部	磁片	焼文(滑潤?)	内外、ナデ	原形(原形)72.72と組合、北朝国23と同一個体か?
87	AE1区	3	漆鉢	胴部	磁片	焼文(滑潤?)	内外、ナデ	原形(原形)72.72と組合、北朝国23と同一個体か?
89	AE1区	3	漆鉢(樽形心?)	胴部	磁片	焼文(滑潤?)	内外、黒縁赤裏	原形(原形)72.72と組合、北朝国23と同一個体か?
90	AE1区	3	漆鉢(樽形心?)	胴部	磁片	焼文(滑潤?)	内外、黒縁赤裏	原形(原形)72.72と組合、北朝国23と同一個体か?

表 2 谷合遺跡遺物一覽表(3)

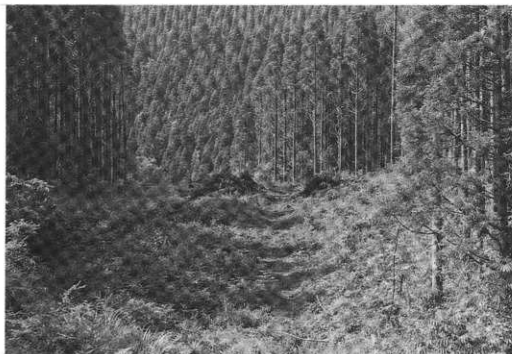
発掘番号	出土区	調査回番号	遺物等	部位	保存性	貯蔵	出	所	備	考	
91	A12区	3	漆林(樽蓋式?)	胴部	良好	焼文無印?	内	裏込表裏	外	ナデ	管線跡付茶器1点、分布区A4、A7、B9、D0、D2と共存
92	A12区	3	漆林(樽蓋式?)	胴部	良好	焼文無印?	内	只脇表裏	外	ナデ	漆線跡付茶器1点、分布区A4、A7、B9、D0、D2と共存
101	B11区	27	石器		完形	焼文					江戸
102	B01区	36	打製石器		完形	焼文					駒岡遺跡(保存)
103	B01区	36	打製石器		完形	焼文					ナキヤ-3
105	B02区	12	漆林(樽蓋式)	胴部	破片	焼文無印	内	ナデ	外	ナデ	新 谷町遺跡106と共存
106	B02区	12	漆林(樽蓋式)	胴部	破片	焼文無印	内	ナデ	外	ナデ	新 谷町遺跡106と共存
108	B02区	10	漆林(樽蓋式)	胴部	破片	焼文無印	内	ナデ	外	ナデ	新
109	B02区	13	漆林(樽蓋式)	胴部	破片	焼文無印	内	ナデ	外	ナデ	新



谷合第2遺跡遺景



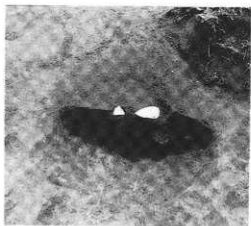
発掘調査前全景



B地区発掘前風景（A地区から）



工事後の谷合第2遺跡（北から）



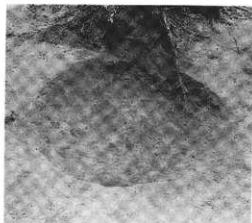
P 1 磁器出土状况



P 1



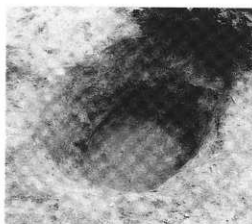
P 2



P 3



P 4



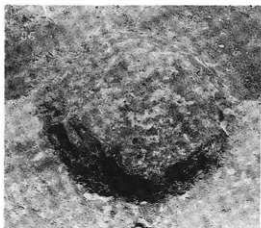
P 5



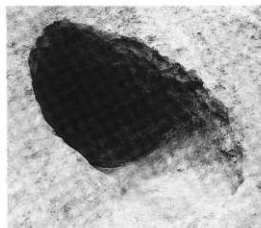
P 6



P 7



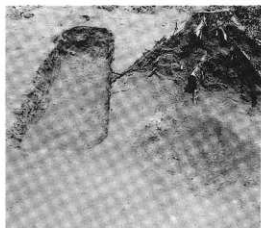
P 8



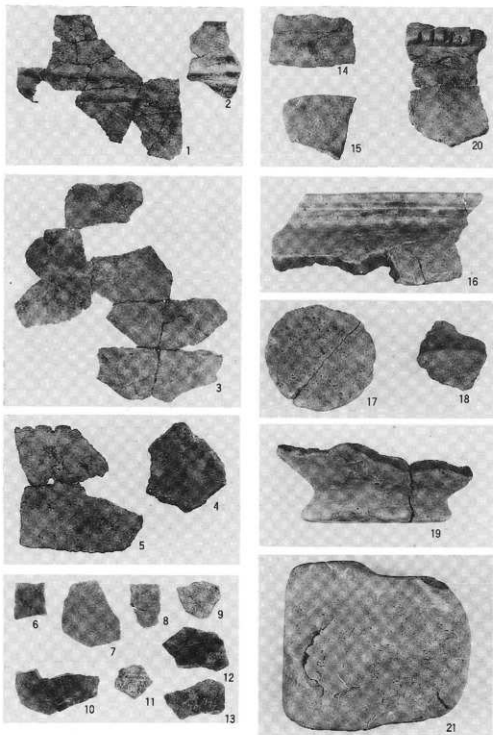
P 9



P10 (下)、P11 (上)



P10 (左)、P11 (右)



出土遺物：縄文土器・石器（番号は実測図と同一）



21



22



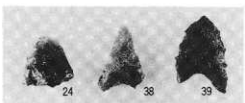
23



26

29

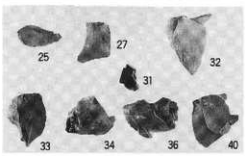
35



24

38

39



25

27

31

32

33

34

36

40



28



30

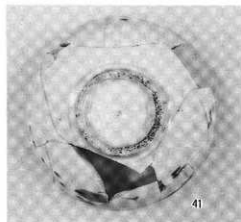
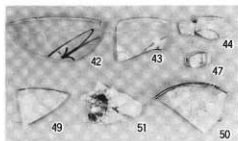


37

出土遺物：石器（番号は実測図と同一）



P 1 検出磁器破砕状況



出土遺物：石器（番号は実測図と同一）

Ⅳ 大塚遺跡

第1節 調査の概要

調査対象となった部分は、大塚古墳の南の山際である。試掘調査は、遺物・遺構等の存在が予想される緩斜面にトレンチを7か所設定して実施した。当地の基本層序は、第Ⅰ層表土（黒色を呈する）、第Ⅱ層締まりのない暗褐色土で下部ほど褐色味がつよくなる、第Ⅲ層褐色土（2次アカホヤ）、第Ⅳ層アカホヤ、第Ⅴ層赤褐色土が混じる灰青色火山灰、第Ⅵ層やや堅く締まる暗灰褐色土で小礫を含む、第Ⅶ層粘質の暗褐色土となっている。各トレンチでは、東端に設定した第7トレンチで表土下位がアカホヤであった以外は、土層の残りは良い。遺物は、第2トレンチの第Ⅱ層から第Ⅲ層で縄文後期の土器、第3トレンチで青磁片等が出土しているのみであり、遺構は確認されなかった。試掘調査の結果から本調査は、第2・3トレンチ周辺の18m×13m、230㎡を調査対象として実施することとした。

調査は、対象地内の表土を重機で除去後、第Ⅱ層の面から遺構等の検出に努めた。その結果、溝状遺構3条（SE1-3）、プランが不整形の土坑が4基（SC1-4）、ピット状のもの4個程切り合って検出されている。遺物は、青磁、焼石のほか縄文後期の土器等が少量出土しているのみである。第Ⅲ層の調査については、トレンチ法で実施した。縄文後期の遺物が少量出土したのみで遺構は検出されていない。

第2節 調査の結果

1 遺構

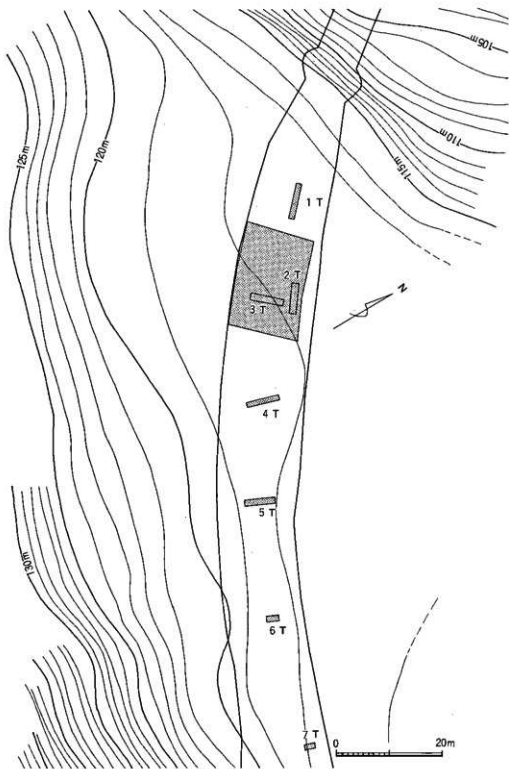
溝状遺構SE1は、北西-南東方向にほぼ直線状に延びている。上幅約200-170cm、下幅60cmで、深さ20cmほどが計測される浅い溝である。溝の埋土は、黒褐色系の土がレンズ状に堆積し、第3層には部分的に黒色のブロックを含む。溝の中央でピット状のものが4個程切り合っており、上部で焼石が2個出土している。SE2・3も浅い溝で、南北方向に平行している。SE2は、SE1上で東へほぼ90度でおれている。SE2は上幅205-110cm、下幅130-60cmで、深さ16cm、SE3は上幅70cm、深さ9cmほどが計測される。

土坑SC1は、隅丸長方形形で長軸200cm、短軸70cm、深さ15cmほどが計測される。SC2-4は一部しか調査していないが、10cm-15cm程で浅いSC13の上部には焼石がややまとまっているが人為的に配石された状態ではなかった。その他、焼石の集中区はSC3の集石状態と同様の焼石の集中区が2か所検出されている。

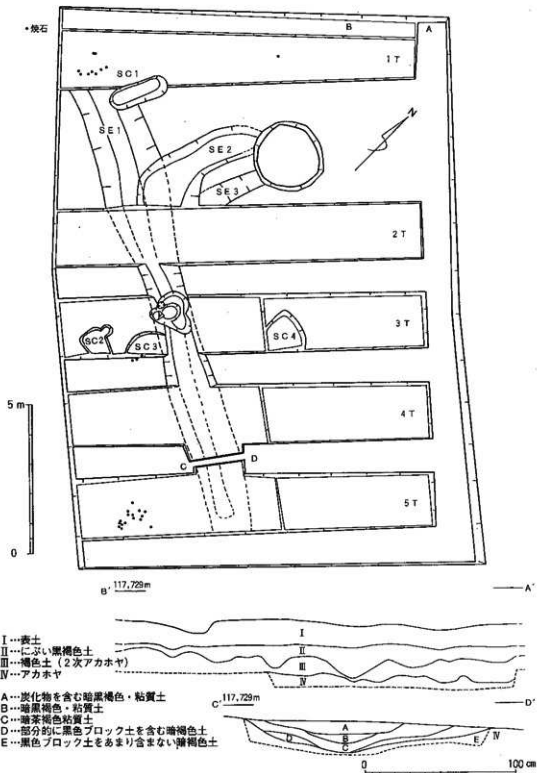
検出された遺構は、出土遺物、埋土、焼石等から中世の可能性が高い。

2 遺物（第16図）

遺物は、縄文土器（1-8）と中世（9-12）の遺物である。縄文土器は、単線・斜線の沈線



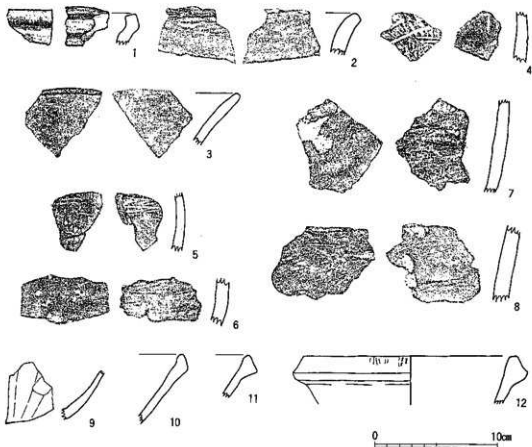
第14図 大塚遺跡地形図及びトレンチ配置図



第15図 大塚遺跡遺構分布図・土層図

文が施文された4以外は無文である。器面の調整は、ナデ或いはヘラナデであり、内面にヘラナデが多用され、内面の調整が外面に比べ丁寧である。1～3は口縁部で内傾する1、わずかに外反する2、大きく広い3とバラエティに富むが、いずれも頸部が内湾し胴部下半部で屈曲する深鉢形が推測される。5は貝殻条痕文風に見えるが、ヘラナデの痕である。4以外は外面にスス付着している。出土した縄文土器は、この特徴から後期後半の時期と考えられる。

9は、竊風の稜線が縦方向に3条見られる青磁碗で下端は露胎となっている。10・11は東轆系の捏ね鉢で、口縁部は断面三角形形状で上部は黒塗りになっている。12は、口縁部に鈔が巡る滑石製の石鍋である。材質は極めて悪く、赤褐色の粒子が多量に含まれ、器面には凹凸が多く見られる。



第16図 大塚遺跡出土遺物 (1/3)

表3 大塚遺跡出土遺物観察表

番号	出土遺等	時期	器種等	部位	調査		文様	備考
					外面	内面		
1	4丁	縄文後期	深鉢	口縁部	ナデ	ナデ		スス付着
2	4丁	縄文後期	深鉢	口縁部	ナデ	ナデ		スス付着
3	3丁	縄文後期	深鉢	口縁部	ナデ	ヘラナデ		スス付着
4	表土	縄文後期	深鉢	胴部	ナデ	ナデ	沈積文	
5	5丁	縄文後期	深鉢	胴部	ヘラナデ	ヘラナデ		スス付着
6	5丁	縄文後期	深鉢	胴部	ナデ	ヘラナデ		スス付着
7	5丁	縄文後期	深鉢	胴部	ナデ	ヘラナデ		スス付着
8	3丁	縄文後期	深鉢	胴部	ヘラナデ	ナデ		スス付着
9	表土	中世	舌形筒	胴部				縦線残痕あり 下縁磨削
10	表土	中世	舌形筒	口縁部	ナデ			口縁部黒塗り
11	2丁	中世	舌形筒	口縁部				口縁部黒塗り
12	6丁	中世	筒	口縁部				治石製・赤褐色不純物を含む

大塚遺跡近景



調査区南半部

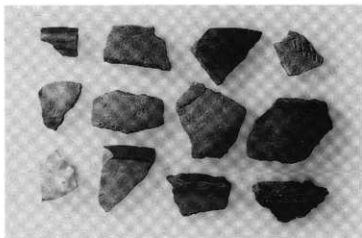


第5トレンチ確出土状況

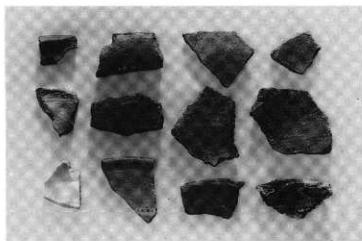




SE1土层



出土遺物 (表)



出土遺物 (裏)

谷合第1遺跡
谷合第2遺跡
大塚遺跡

沿海南部地区広域農道建設事業に
伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(2)

平成6年3月

編集
発行

宮崎県教育委員会

〒880 宮崎市橋通東1丁目9-10
